

体験レポート

“ゆるほん”



第9回ライブラリーラウンジとして開かれた6月24日の「ゆるほん」。チラシを見ると「ひとりじゃない読書への誘い ゆるくほんで おしゃべり、してませんか？」という、ユルユルの表題です。学生アドバイザーの企画運営ということなので、“私も参加するんで、取材させて”との交渉が無事、成立。これがそのレポートです。

当日は参加者16名。一般学生+学生アドバイザー+健康市民大学受講生+取材の私です。開会は学生アドバイザーから、“一人3分間くらい、本をゆるく紹介してください。自由に本の話で会話してほしいんです”“今日参加していただいた皆さん、互いに知らないと思います。本は一人で読むのもいいんですけど、読むだけでなく、知らない人と本を紹介しあうことでコミュニケーションを図ってみようという企画です”と説明。3グループに分かれて、自己紹介と自分が話したい本の説明と推薦が始まりました。すぐに始まったのはよいのですが、私のグループはというと、驚いたのは私。“皆、なんてカタイ本なんだ！こんなにマジメに本を読んでいるなんて！…”。よくよく今日の企画を読み直せば、ゆるく本を紹介するのであって、ユルい本を紹介するんじゃないんだ…、ああ誤解でした。企画側としては自由な本選びの趣旨があったとは思いますが、参加した人たちの純な姿勢には感嘆です。“こんなステキな学生がいるんだ、教えてくれてありがとうね”と、私は心のなかで感謝です。あとはワイワイガヤガヤで、予定した時間はアツという間に過ぎました。最後に持ち寄った本を紙に書いて貼りだしました。

私は取材兼参加者だったのですが、“ああ、学校ってイイなあ”と思う時間を味わいました。もっともっと、たくさんの人たちに体験してほしい時間でした。このレポートを読んでくださった、あなた、ぜひ次回に参加をおススメします。

事務職員 加藤 寛之

